

原爆の図 丸木美術館を訪問



イスラエルの日本学会会長であるロテム・コーネル・ハイファ大学教授Ⅱ写真中央Ⅱが昨年10月19日、埼玉県東松山市にある「原爆の図丸木美術館」を訪問した。

同美術館は、広島出身の画家、丸木位里さんが原爆投下から3日後、1週間後には妻・俊さんも広島に入り、焼け野原の中で救援活動を手伝った。水墨画の位里、油彩の俊夫妻は5年後から「原爆の図」を描き始め、32年かけて15部にわたる大作を完成。そのほかにも戦争や公害など、人間が人間を傷つけ、破壊する愚かさを書き続けた。

日本学会は2015年3月にハイファ大学で「東京大空襲、広島、長崎三都物語」と題したシンポジウムを開催し、日本から東京大空襲被災者の佐藤昌男さん、上原淳子さん、広島被災者である平田道正さん、さらにJIFAの篠輝久さんも参加、証言した。

コーネル教授はか

ねてから美術館訪問を希望していたが、今回、平田さんと佐藤さんが案内し、実現。小寺隆幸同美術館理事長の説明を受けた。

コーネル教授は2015年に来日した時には、東京深川の「東京大空襲・戦災資料センター」を見学している。(以上の記事は教授に同行した平田道正さんの記録に基づくもの)

ユダヤ文化を学ぶ会 2回目は30数人参加

昨年10月28日、東京のお茶の水クリスチャン・センターで、第2回「ユダヤ文化を学ぶ会」が開かれた。イスラエルに関心のある人、イスラエル・ユダヤ文化検定の受験希望者を対象としたJIFA主催の学習会で、30数人の参加者があった。若い人を中心に、中高年の参加者も多く、熱気に溢れた会となった。

講師は黒川知文氏(愛知教育大学教授、JIFA理事)で、豊富な資料をもとにユダヤ文化を説明。第3回の「イスラエル・ユダヤ文化検定」の問題にも言及した。会はイスラエルの歌2曲を歌って終わった。

第4回 イスラエル・ユダヤ文化検定

受検者は23人、連続上級合格者も

日本イスラエル親善協会は、昨年11月26日(土)、東京と大阪の2会場で、第4回イスラエル・ユダヤ文化検定を実施した。受検者は23人だった。

試験問題は、イスラエルの歴史、文化、宗教、国内・国際関係、ユダヤ史、日本とイスラエルとの関係などから50問出され、3択で解答する。

問題の作成、採点、合否判定は、イスラエル・ユダヤ文化について高い知識を有し、当協会が委嘱する下記の検定審査員3人が担当した。

市川 裕氏(主査 東京大学教授・日本ユダヤ学会理事長)

池田明史氏(東洋英和女学院大学学長)

黒川知文氏(愛知教育大学教授)

試験(50点満点)結果は、初級(10~21点)11人、中級(22~33点)11人、上級(34~50点)1人だった。受検者数は昨年より半減したが、これまでに複数回受検した人が何人もいて、より高い得点を得ている。

試験問題は平易ではないが、3年連続して上級者が出ている(1人)。受検者の熱意が感じられ、次回はより多くの方が受検されることが期待される。

今後の開催については、当協会の広報誌「イスラエル」や公式ホームページなどでお知らせします。多くの皆様の挑戦をお待ちしています。